



東急電鉄



三菱商事



三菱地所レジデンス



大林新星和不動産

報道関係者各位

2017年7月4日
東京急行電鉄株式会社
三菱商事株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
大林新星和不動産株式会社

地域のコミュニティ活性化の核となるコワーキングスペースや保育所・学童保育施設などを完備
「次世代郊外まちづくり」の将来像を具現化した
「ドレッセW I S Eたまプラーザ」が2018年秋に誕生

会員優先販売の全88戸が即日登録申込完売し、7月にはゲストサロンがグランドオープン

東京急行電鉄株式会社、三菱商事株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、大林新星和不動産株式会社の4社が手掛ける分譲マンション「ドレッセW I S Eたまプラーザ」(以下、本物件)が2018年9月に誕生します。本物件は、「次世代郊外まちづくり」が目指す、暮らしに必要な機能が生活の徒歩圏内に整い、誰もが安心して住み続けることができるまち「W I S E C I T Y」(※1)を具現化し、良好な住宅地とコミュニティの持続・再生に寄与します。

本物件は、東急田園都市線「たまプラーザ」駅徒歩4分という恵まれたエリアに位置しており、COURT [A]・[B]・[C]からなる総戸数278戸の分譲マンションです。低層階には、地域のコミュニティ活性化の核となる複合利便施設「CO-N I W Aたまプラーザ」として、居住者以外も利用可能なコワーキングスペース、保育所や学童保育施設、コミュニティカフェ、イベント広場などを備えています。高齢者が安心して暮らすことができ、同時に若い世代を惹きつける機能を充実させることで、多世代の交流や活動を促進します。

本年2月～4月には、各事業者の会員向けにCOURT [A] (全88戸)の優先販売を行い、即日登録申込完売しました。お申し込みいただいたお客さまの約7割が、青葉区を中心とした周辺エリアにお住まいの方で、持家比率は8割程度と、「住みかえ」をお考えの方に評価を頂きました。4月下旬から一般販売として、資料請求ならびに完全予約制の事前案内会を開催しており、7月8日にはゲストサロンがグランドオープンする予定です。

本物件が位置する「たまプラーザ」駅北側地区は、郊外住宅地のさまざまな課題解決を目的に、2012年から、横浜市と東急電鉄を中心に、「次世代郊外まちづくり」が進んでおり、産・学・公・民が一体となって地域活性化に取り組んでいる地域です。本物件も、「次世代郊外まちづくり」の拠点として、生活の徒歩圏内に暮らしに必要な機能が整い、誰もが安心して住み続けることができる「コミュニティ・リビング (※2)」の取り組みの一翼を担います。



外観イメージ



「CO-N I W Aたまプラーザ」イメージ

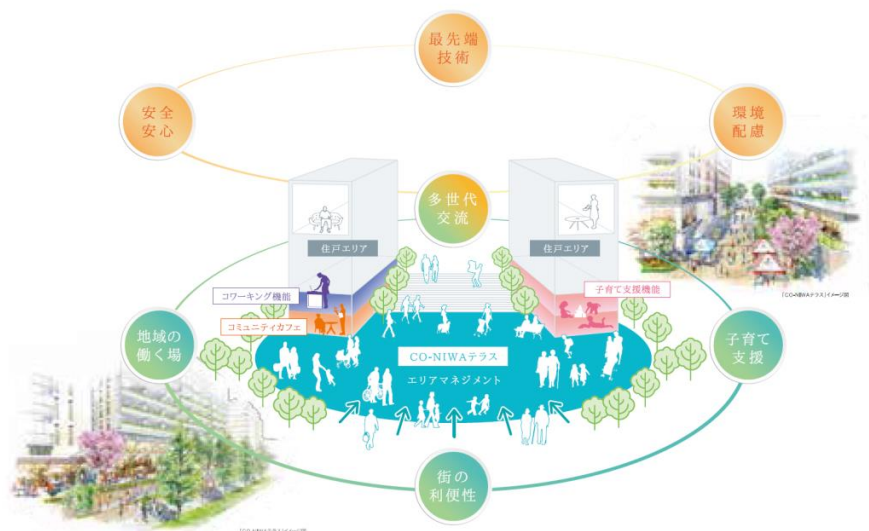
物件概要



所在地	神奈川県横浜市青葉区美しが丘一丁目8番1（地番）
交通	東急田園都市線「たまプラーザ」駅より徒歩4分
総戸数	278戸〈会員優先販売済みCOURT [A]（88戸）含む〉
住戸専有面積	61.92㎡～130.87㎡(予定)
間取り	2LDK～4LDK(予定)
構造／階層	鉄筋コンクリート造／地上10階地下1階建（COURT [A]・COURT [C]）・地上9階地下1階建（COURT [B]）
売主	東京急行電鉄株式会社（売主） 国土交通大臣（11）第2621号（一社）不動産協会会員（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟 〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6 三菱商事株式会社（売主） 国土交通大臣（14）第642号（一社）不動産協会会員（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟 〒100-8086 東京都千代田区丸の内2-3-1 三菱地所レジデンス株式会社（売主・販売代理） 国土交通大臣（14）第408号（一社）不動産協会会員（一社）不動産流通経営協会会員（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟 〒100-8189 東京都千代田区大手町1-6-1 大林新星和不動産株式会社（売主） 国土交通大臣（14）第312号（一社）不動産協会会員（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟（一社）不動産流通経営協会会員（公社）全国宅地建物取引業保証協会会員 〒102-0074 東京都千代田区九段南3-3-6 麹町ビル
施工	東急建設株式会社
管理会社	株式会社東急コミュニティー（予定）
建物竣工予定日	2018年7月下旬予定
入居開始予定日	2018年9月下旬予定

敷地配置図・現地案内図





「次世代郊外まちづくり」の将来像「W I S E C I T Y」を具現化するプロジェクト 街をつなぎ、人と地域を結ぶ、「ドレッセW I S Eたまプラーザ」が誕生 街のコミュニティの核となる複合利便施設「CO-N I W Aたまプラーザ」

これまでの住宅づくりとは異なるアプローチで設計された本物件は、住居機能だけでなく、地域の方もご利用いただけるオープンスペース「CO-NIWAテラス」をはじめ、コミュニティカフェ、保育所・学童保育施設、コワーキングスペースを備えた複合利便施設「CO-NIWAたまプラーザ」を有します。多世代交流、子育て支援、街の利便性、地域の働く場の4つの機能をテーマにした“場”の創造と、イベントの開催や仕組みづくりに取り組むエリアマネジメントの実施により、街・暮らしに更なる活気を創出します。

「CO-NIWAテラス」は、居住者だけではなく、地域の方々の交流の場としても機能し、街に新しい賑わいを生み出します。一年を通して凛々しく佇む常緑高木や、たまプラーザの象徴であり春の訪れを美しく告げる桜など、さまざまな種類の木々を植樹し、四季の彩りを感じられます。



COURT[B]・COURT[C]の間にある、敷地の東西をつなぐ階段状の広場。高低差を活かした3つのステージでは、居住者や地域の方がイベントを開催でき、賑わいのある街角を演出します。



ユリノキ通りに沿ってつくられる遊歩道型のオープンテラス。利便施設の賑わいと木々の安らぎに包まれて、人々が集い、歩いて楽しい空間を創出します。

暮らしの楽しみを育む、豊かな住宅共用施設

屋上にあるコミュニティ菜園「スカイファーム」で季節の野菜を育て、収穫した野菜を建物内の共有スペース「キッチンスタジオ」で調理するなど、本物件では活気ある暮らしを叶える機能を多く備えています。「コモンラウンジ」や、貸し切りでご利用いただける「ダイニングラウンジ」も、趣味を楽しんだり、仲間同士で交流を深めたりと、シーンに応じて活用いただけます。自然豊かな中庭である「コートヤード」や、居住者への来訪者を迎える2つの「ゲストルーム」も生活に彩りを与えてくれます。

多世代の多様な暮らしを叶えるプランニングと最新の設備仕様

引き戸を採用するとともに水廻りのスペースにゆとりを持たせることで、車椅子の方も快適にお過ごしいただける「高齢者配慮プラン」、隣り合う住戸に扉を設け、家族のつながりを叶える「二世帯隣居プラン」など、多様なライフスタイルに応えるプランをご用意しました。

全住戸にはエネファームおよびイッツCOMのインテリジェントホームを実装。外からでも、スマートフォンの使用によってお風呂のお湯張りや空調操作を行うことができます。

災害時には、太陽光パネルや蓄電池、非常用発電機、EVカーシェアの分散型電源を供給元に、共有部分の一部の電気使用や各住戸の水道使用が可能。また、エネファームの停電時発電継続機能により、各住戸の専用コンセントでも電力確保ができます。

建築物の総合的な環境配慮への度合いを示す「CASBEE横浜（横浜市建築物環境配慮制度）」において最高ランクのS評価、住宅性能評価の省エネルギー対策において最高等級の4・5を取得するなど、環境と調和した暮らしが可能であるのも本件の特徴のひとつです。

Wellness・Walkable & Work 多世代の快適な暮らし	Intelligence & ICT 最先端技術で支える暮らし	Smart・Sustainable & Safety 安心・安全な暮らし	Ecology・Energy・Economy 環境に配慮した暮らし
■ 多様なプランニング ■ 多彩なライフサポート	■ エネファームの便利なサービス「エネバ」 ■ イッツCOM インテリジェント ホーム	■ 分散型電源による災害時電気供給 ■ 地域の防災拠点 ■ 各種防災備蓄品	■ 家庭用燃料電池(エネファーム)全戸採用 ■ 自然を活かしたパッシブデザイン ■ シェアするエコ
高齢者あんしんプラン ホワイエプラン つながりリビングプラン 二世帯隣居プラン 食配室 シガーブース(喫煙所) 宅配ロッカー 24時間ゴミ出し可...etc	スマートフォンアプリで、機器の操作や見える化が可能に。 外出先から家電をコントロール。 お子様の帰宅確認や、ご高齢者の見守りに。	太陽光パネルや蓄電池、非常用発電機やEVカーを供給源に、電気だけでなく、水の供給も行えます。 各種防災備蓄品	省エネに加え、停電時の備えにもなります。 グリーンカーテンフック 通風玄関ドア EVカーシェアリング 備品シェア

※1 ご参考：「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの「WISE CITY」

既存のまちが創りかえられ、良好な住環境とコミュニティの持続と再生が実現した郊外住宅地の将来像を、「WISE CITY（ワイズシティ）」と名付け、「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの将来像として掲げています。「WISE CITY」とは、Wellness・Walkable & Working、Intelligence & ICT、Smart・Sustainable & Safety、Ecology・Energy & Economyの頭文字をとった造語です。WISEという言葉には「賢い、懸命な」という意味もあり、WISE「賢いまちづくり」を目指す、という思いも込められています。



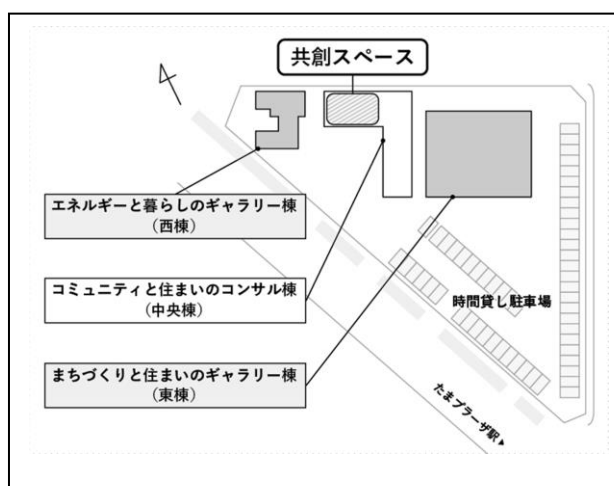
※2 ご参考：コミュニティ・リビング

歩いて暮らせる適度な生活圏ごとに買い物、福祉、医療、子育て、コミュニティ活動など、地域に必要な機能を空家や空き地、土地利用転換の機会などを活用して適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方。コミュニティ・リビングを実現することで、住まいから歩ける距離に暮らしに必要な機能が整い、高齢化した住民が自宅で安心して暮らせるようになります。「次世代郊外まちづくり」を進める上で、主要な理念として位置付けています。



ご参考：WISE Living Lab

「WISE Living Lab」(ワイズ リビング ラボ) は、「次世代郊外まちづくり」の情報発信や基本構想に基づくプロジェクトなどの活動拠点です。本施設はモデル地区である、「たまプラーザ駅北側地区」内で東急電鉄が所有する土地・建物を活用し、「次世代郊外まちづくり」が目指す「WISE CITY」の体現に向けた機能が導入されている3棟の建物から構成されます。



WISE Living Lab全体図



WISE Living Lab中央棟 (右) と西棟 (左)

所在地：横浜市青葉区美しが丘二丁目23番1、3

面積：3,892.38㎡

所有者及び事業者：東京急行電鉄株式会社

ホームページ：<http://sankaku-base.style/>